

若い世代の人の方が理解や納得の意を示して
 来てきた。特に自分たちの親世代の方には
 る障害ではないのでかなりの辛い。目に見えて分か
 を言われるのがかなり辛い。目に見えて分か
 と言われることが多かった。親としてはこれ
 「そんな風には見えんけどなあ。普通じゃろ
 発達障害などの話にもなるのだが、
 の方などが声をかけてくださって、子ども
 いた。そんな折に心配してくださったご近所
 さまじく、毎日のように泣き叫ぶ日が続いて
 子が生まれたばかりの頃の上の子の癩癩はす
 ち着いて過ごせない日々もあった。特に下の
 がストレスになってしまった時期もあり、落
 が解消されるわけでもなく：子供たちも療育
 の理解などが進むわけでもなく、生活の問題
 療育施設に通い始めたところで直ちに特性
 ではあるのだが。
 さるところだったので、そこは結果オーライ
 した療育をさされておおり、とても良くしてくだ
 かった。見つかった療育施設は自閉症に特化

くれる人が多くいたように思える。それでも話をした際にはほぼ必ずと言っていいほど言われていた気がするが。周囲の理解はそのような感じであったのであまりにも癩癩がひどい時などは近所の方にも虐待を疑うような事も言われた。保育園でも幼い時は癩癩が強く暴れまわり、先生方にもどうしたらいいですか、と言われたこともあった。そのような感じであった為、療育先などに相談すると、まずは親が障害に対しての理解を深めること、対応を学ぶこと。そして周囲に子供たちの特性を伝え、理解してもらうことが子供たちの困りごとが少なくなると教わった。その後には困りごとが起きるたびに療育先や園と相談しながら対応を考え、関わる人たちに子供たちの特性を伝えることによりって理解も得られるようになってきている。子どもたちと同年代くらいの子たちの方が説明などしなくてもよくわかってきている節があるが。そのかいもあってか、年を重ねる

たびに落ち着いて過ごせるようになってきた。さん。上の子が小学校へ上がった。今でも折に触れて子供たちと関わりがある。人などには子供たちの特性などは伝えるようにしている。目に覚えて分かるような障害でもないため、配慮が必要な存在だとわかるわけではない。だからこそ子どもたちが落ち着いて、子どもたちらしく過ごすためには彼らの事を知ってもらわなければならぬし、発達障害という障害があることも知ってもらわなければならない。誰しも知らなければ理解もしてくれないのだから。

幸いなことに私の子どもたちは常に特段の配慮や対応が必要な子どもではない。だが子どもたちが落ち着いて楽しく過ごすには親の私たちも含めた周囲の理解は必要になってくる。大きくなるにつれて世界は広がり、関わる人の数もどんどん増えていくことになる。

いずれは親の手を離れてもつと広い世界へ飛

び出し、彼ら自身が主体となつて社会と関わ
つていく事になるだろう。そうなったとき
は彼ら自身が自分のことを上手に周囲に伝え
理解してもらえらるような方法を親の私たちが
手本となつて見せていき、その方法を伝えて
あげねばいけないと思つている。
大仰に『障害』とついた子どもたちの特性
ではあるが、彼らとよく関わつて理解さえし
てくれればそれは誰もが持つ『クセ』に変わ
ると信じている。変えようがなく、困りごと
が多いかもしれないクセではあるが、知れば
知るほど彼らの味の一つでもあると思つても
らえればありがたい。毎日のようにいろいろ
なことが起こり、大変ではあるが、そんな彼
らと楽しく過ごして行くためにも、子どもた
ちを周囲に知つてもらうためにも、周囲の人
たちにはこう伝えていこうと思ふ。
「うちの子どもたち、クセがすごいんです」